

— 心豊かに生きるために —

前回は障害者の人権について掲載しました。障害者の立場を理解するだけでなく、実際の場面で障害者の方がしてほしいことを自然にできるようになればと思います。

今回は、「高齢者の人権」について掲載します。

高齢者の人権

— いくつになっても輝き続けるために —

ある日の出来事

～「おばあちゃんと店番」～

ぼくのうちは八百屋だ。「いらっしゃい！」お父さんの元気な声が響く。「おばあちゃんは座っててください。」気づかうお母さんの声が聞こえるのも、いつものこと。でも、なんだか最近おばあちゃんは元気がない。

「いらっしゃい、いらっしゃい！」学校から帰ると、なんとおばあちゃんの声。「あれ、おばあちゃん一人？」「みんな配達に行とるよ。今日は白菜がきれいですよ。はいありがとうございます。」いつもと違うイキイキした表情。ちょっとゆっくりだけど、きちんと野菜を包んで、お金を受け取るお客さんも、おばあちゃんのアドバイスを元に、野菜を選んでいく。

「よかれと思って『休んでください』って言っていたけど、おばあちゃんにとっては、楽しみを奪われていたようなものかもねえ。」いつの間にか帰っていたお父さんとお母さんが、明るいおばあちゃんの様子を見ながら話していた。



〈考えてみましょう〉

誰でも年をとると心身の機能の低下が見られるものです。しかし、人は一人ひとり同じではなく、体力や判断の低下の度合いも人によって違います。

年齢だけで「高齢者は○○だ」と決めつける固定的な思い込みが、誤解や偏見につながります。

また、逆に「高齢者にそんなことをさせて・・・」などと高齢者を特別扱いすることも、本人の意思が反映されていなければ、その人の人権を尊重したことにはならない場合があります。人は年をとりますが、いくつになっても、意欲と能力に応じて活動し、個人として尊重され、その人らしく暮らしていくことは誰でも望むことです。

私たちは、人生の先輩であり、社会を支えてきた高齢者に対し尊敬の念を忘れず、その人格を尊重することが大切なのではないのでしょうか。

